

編集後記

5月の大型連休を利用しこの編集後記を執筆しています。当地弘前では、例年この時期は桜が満開となる季節です。日本一の桜の名所と言われる弘前城には全国各地から観光客が訪れます。約15万坪の園内にはソメイヨシノをはじめとし50種類以上、約2,600本余りの桜が咲き乱れます。しかし、今年は全国的に桜の開花が最速を記録したように、弘前城の桜も4月中旬には満開となり、今はすでに新緑の季節となっていました。

気象庁ホームページによると、私が医学生だった頃(1982～1987年)の青森県の桜の平均開花日は4月29日でした。ここ最近5年間の平均開花日は(記録的に開花が早かった今年を除いても)4月16日ということなので、この30年余りで桜の開花が半月早まったこととなります。たかが桜の開花日かもしれませんが、地球温暖化は確実に進んでいるのでしょう。

さて、桜(ソメイヨシノ)の寿命は60年から80年と言われています。昭和に入り、弘前公園では明治時代に植えられた桜が徐々に衰え始めていました。「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」という諺をご存じでしょうか。元来、桜は枝の切り口から病気が入りやすいため、強い剪定をしてはならないと言われていた当時、「桜の木はりんごと同じバラ科の植物だから、剪定して手入れをすると木が元気になる」と考えた職員が、衰えた木の枝をばっさり剪定してしまいました。多くの批

判も浴びましたが、切り落とした枝先からは若芽が芽生え、桜の木は徐々に回復していきました。その後、職員の方の研究は重ねられ、枝を剪定し、花が終わると肥料をあげ、虫や病気から守るための薬をかけ管理するという日本一のりんご生産地ならではの「弘前方式」が育まれました。今では「チーム桜守」と呼ばれる樹木医の方々が弘前方式を受け継ぎ、弘前公園の桜を支えているそうです。そのおかげもあって、弘前公園のソメイヨシノは樹齢100年を越すものが約15%、400本ほどあるとのことでした。

今回の特集は、大江隆史先生ご企画による「ロコモの現状と今後の展望」です。温暖化同様深刻な問題が少子高齢化であり、本邦の疾病構造は日々大きく変化しています。中村耕三先生を中心に日本整形外科学会から提唱された概念が「ロコモ」であり、日本老年医学会が2014年に提唱した概念が「フレイル」です。どちらの概念も早期に適切な治療や予防を行うことで要介護状態になるのを予防することが目的です。また、がん患者の生命予後が格段に改善した現在、患者のQOLやQOD(quality of death/dying)を向上させるための「がんロコモ」という概念も2018年に日整会から提唱されました。平均寿命が男女とも過去最高を更新しています。弘前公園の樹木医ではありませんが、健康寿命を担う整形外科医の役割は益々大きくなるものと思われます。(石橋恭之)

「整形・災害外科」第66巻 第7号(6月号) 2023年6月1日発行(毎月1回1日発行) 定価 2,970円(本体 2,700円+税 10%) 年間購読料金 定価 45,980円(本体 41,800円+税 10%) [年間13冊(臨時増刊号、増大号を含む)の誌代] [年間予約購読者に限り送料無料]	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03(3811)7165 [編集室直通] TEL 03(3811)7184 [営業部直通] FAX 03(3813)0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 (株)文京メディカル TEL 03(3817)8036
--	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。